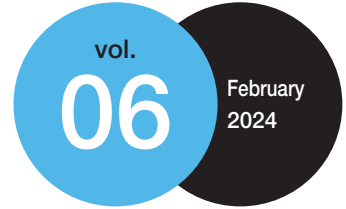


あかつき 道徳 TIME



道徳の授業は、「生き方」について考えを深める時間。教師も答えが一つではない道徳的な課題について共に考えていく。そんな教師が自分の人生について悩んだときや迷ったとき、落ち込んだときに、「本」が導いてくれたことがあるのではないだろうか。本号では、道徳教育を推進されるさまざまな立場の先生方から、長い人生の道のりで自身が影響を受けた本について紹介していただきます。

道徳授業の達人に聞く 私の人生の一冊



貧しい兄妹チルチルとミチルが、幸せの象徴である青い鳥を探す物語（戯曲）。チルチルとミチルは、思い出の国、夜の宮殿、未来の国などを訪れるが、青い鳥は見つけられなかった。最終的に、自宅に戻った彼らは、青い鳥が自分たちの近くにいたことに気づく。



青い鳥
メーテルリンク・著 堀口大夢・訳
(新潮文庫)

人生の旅路を通じて 幸せを考え続ける

浅部航太

(東京学芸大学教職大学院准教授)

北海道公立小学校教諭を経て北海道教育大学教職大学院札幌校に長期研修派遣。その後、北海道教育庁空知教育局指導主事、北海道立教育研究所主任研究研修主事を経て、令和5年度より現職。[教師のための教育学シリーズ8 道徳教育論 第二版]などに執筆。

初めてこの本を読んだ小学生の頃は、結末が曖昧なためか「ふーん」としか思いませんでした。しかし、十代の後半にこの本を読んだとき、幸せの内実が明らかにされないことに逆に興味をもち、「自身にとっての幸せとは何か？」を考える契機になりました。さまざまな種類の幸福観（ふとりかえった幸福・大きな喜び等）に触れ、比較対象が生まれたこともよかったです。

この本の出会いから、幸せや生き方について自問する機会が増えた気がします。人生の岐路に立つたび「自己」を見つめ、ライフステージが進むにつれ自身の幸福観も変容していきました。飽きっぽい私が、道徳教育を面白いと感じ研究を続けているのは、この本がきっかけで生き方を考える面白さ（難しさ）に気づいたからかもしれません。幸せの中身は人それぞれ異なります。それを大人が教えることはできません。これまで一般的によく言われた価値観も変化することが予想されます。そんな時代を生きる子どもたちには、これまで以上に、人生の旅路を通じて幸せとは何かを考え続け、自分なりの青い鳥を見つけてほしいと願います。

想像力を届かせて 本質を見極める

川崎達也

(東京造形大学非常勤教員)

東京都立中学校教諭から、教頭、副校長、校長、統括校長。特別支援学級担任を経て令和4年度より現職。元全国中学校学年学級経営研究会会長。元全日本中学校長会生徒指導部副部長。元東京都教育委員会「人権教育プログラム」編集委員長・編集委員。

ガラスの地球を救え

二十一世紀の君たちへ

手塚治虫(光文社知恵の森文庫)



戦後日本の漫画界の第一人者として活躍した手塚治虫が生前、講演会やテレビで語った言葉を集めたエッセイ集。作品に対する思いや戦争の体験など、医師として、そして今を生きる大人として、未来を生きる子どもに向けたメッセージである。

私が物心がついたときには既にアトムは活躍し、白いライオンのレオも超生命体火の鳥も存在していました。壮大な物語に心躍らせた私が大人になられたからでした。手塚治虫の作品を勝手に「空想科学マンガ」と位置づけていた私は、まさに目からうろこが落ちる思いで本書を読みました。

世の中から「荒唐無稽だ。」と非難や反発が起こり、作品が理解されず多くの苦難を経験した彼が、それでも描き続けることで伝えられたことは何か。それは、生命の尊厳、人間の価値、自然への畏敬の念でした。目の前のことを見つめているだけでは未来は見えてきません。本質を発見するため想像力を届かせる。その発想は教育にとっては欠かすことはできないと痛感しました。本書では常に現代社会や大人に警鐘を鳴らし続けています。私たちは物事に真剣に関わり、なすべきことを考え、それぞれの立場で実行するべきだと考えました。

昨年、生成AIを用いた『ブラック・ジャック』の新作が発表されました。まさに彼の創造性の高さを証明しています。はるか先を見通す彼は二十一世紀をどう評価したでしょう。

本物や真実は、人の 思い抜きには語れない

小山昌二

(大阪府忠岡町立忠岡小学校校長)

大阪府立中学校教諭から、忠岡町教育委員会。忠岡町立忠岡中学校教頭、校長を経て、令和5年度より現職。横山道徳教育研究所研究員。[対話的で深い学びのある道徳科の授業をつくる]に執筆。

ゼロ THE MAN OF THE CREATION

愛英史原作 里見桂・漫画(集英社)



美術・工芸作品を始め料理、音楽等、この世に存在するありとあらゆる物を完璧に複製・再現する超人的才能を持った男「ゼロ(ZERO)」を主人公とする一話完結の連作漫画である。ゼロの複製・再現の真髄は、作者の心を読み解き、作者になりきることにある。

教員になって、たまたま出会った青年漫画です。漫画の域をはるかに超える圧倒的な情報量で、知的好奇心をくすぐられ、また、どんでん返しのラストにワクワクさせられました。

「ゼロ」はカッコいいだけでなく、彼の言動から真理の探究というのはいかにもものかと思わされます。彼は、作者になりきり本物を再現するのですが、人の思い抜きには、それできないのです。人が作ったものにはすべて、その人の思いが込められています。その思いが深ければ深いほど、人はその物に魅了されていくし、また、その深い思いを知ったとき、人は感動を覚えるのだと思います。

私が感じる「ゼロ」のもう一つの魅力は、芸術への冒険者には厳しく、逆に、芸術等を究めようとする者、人の道に立ち戻ろうとする者には、深い人間愛に満ちた姿勢を示すところ です。

「ゼロ」の厳しさと優しさ、作者の思いを知ることも含めた緻密な準備、自分が認めた者への揺るぎない信頼、それらを私自身の今までの反省とこれからの人生の指標にしていき、他者へも伝えたいと思っています。

“希望”は自分が 決めた道にある

中野宏美

(大阪教育大学附属平野中学校教諭・研究主任)

平成25年度より泉佐野市立中学校教諭を務め、令和2年度より現職。道徳教育推進教師を経て、研究主任となる。『考える道徳を創る 中学校 新モラルジレンマ教材と授業展開』などに執筆。

希望の牧場

森絵都作 吉田尚令・絵
(岩崎書店)



二〇一一年三月十一日に発生した東日本大震災と、その後の原発事故。福島第一原子力発電所の警戒区域内にある「希望の牧場・ふくしま」を舞台に、牧場にとどまり、取り残された三三〇頭もの牛を生かす「牛飼いの姿が描かれている。

この『希望の牧場』は大人になってから出会い、今でもずっと考えさせられる絵本です。

この絵本を読み終えたとき、見えないものとの闘い、仕事、絆、覚悟、葛藤、命……あまりにも考えることが多く、言葉では言い表せない、ただ漠然と苦しい感情になりました。そんな中で、主人公が「牛飼いの仕事に向き合い、周囲の批判を受けながらも牛を生かし続ける姿に、強い意志を感じました。

一方で、放射能を浴びた売り物にならない牛を育てることに意味はあるのか、立ち入り禁止区域で自分の命を危険にさらしてまで牛の世話をすることが正しいのか、正解はあるのだろうか、とも思いました。しかし、私にとっては、それを考え続けることこそが未来につながる「希望」への道となるのではないかと考えるようになったのです。

「三・一一」として映像や記事で残るものはありますが、読みやすい絵本という形で切実に訴えかけ、年齢を問わず向き合える本書から、子どもたちにも「自分で決めたことを貫く力強さ」を感じてほしいと思います。

人はなぜ生まれ、 どう生きるべきか

與座人司

(沖縄県多良間村立多良間中学校教諭)

宮古島市立鏡原中学校にて、平成30・令和元年度文部科学省指定「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」で道徳教育推進教師を務める。令和4年度より現職。

あん

ドリアン助川(ポプラ社)



町の小さなどら焼き屋さんを営む千太郎のもとに、アルバイトの求人を見てやってきたのは七十歳を過ぎた女性、徳江だった。徳江の作る「あん」が人気を呼び、店は評判になるのだが……。ハンセン病元患者として辛い人生を経ってきた徳江が伝えようとした「生きる意味」とは。

人権学習での学びを道徳授業に生かせないかと悩んでいるときに出会いました。そして、人間の「生きる意味」について教えられた本です。

ハンセン病元患者の徳江は、偏見にさらされて、生きる意味を見失ってしまいました。あるとき、美しい月に見えたことをきっかけに、木々や草花といったものの声に耳を傾けるようになります。そして、その声は感じる心があつてこそ聞こえるのだということに気づき、自分の中に感じる心があると、それが生きる意味なのだと考えるようになります。「たとえ何かになれなくても生きていだけで私たち人間には生きる意味がある」という徳江の言葉がとても心に響きました。世のため、人のために働き、人々を幸せにしたいという徳江の思いによって、千太郎も希望を見いだし生きる意味にもつながっていったのです。

後日『あん』を教材化し授業を行ったときのこと。「自分が生きる意味とは？」という問いにある生徒が「生きる意味を探し続けることが生きる意味だ。」と言いました。今見つけられなくてもいい、探し続けること。私も人生をかけて探し続けていきたいと思えます。

トットちゃんにみる 私の教育の原点

吉田雅子

(大阪体育大学講師)

大阪府公立中学校教諭から、大阪教育大学附属池田中学校、天王寺中学校教諭。道徳教育推進教師を経て、令和元年度より、大阪体育大学教育学部講師(英語教育)。「板書&指導案でよくわかる! 中学校3年の道徳授業 35時間のすべて」などに執筆。

窓ぎわのトットちゃん

黒柳徹子(講談社)



黒柳徹子さんが自身の幼少期を描いた自叙伝。トモ工学園での小学校生活を中心に、トットちゃんの子どものしあや好奇心と行動力で突き進んで行く様子が描かれている。昨年映画化されるなど、初版から四〇年を経てもトットちゃんの姿は色褪せることなく輝いている。

「私も幼い頃、知らないことや文字があれば必ずたずねる子どもでした。そのせいか、小学生の頃、初めてこの本を読んだとき、トットちゃん的好奇心と感受性の豊かさに引き込まれ、心がウキウキしたものです。」

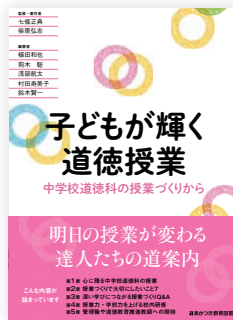
教師となり、改めて読んでみると、トモ工学園には子どもたちの興味を惹くような「本物」が多く取り入れられていたことに気づきました。電車教室を設置する際、電車を持つてくる方法に興味をもった子どもたちが、家族や先生にお願いして学校に泊まり、夜中にトラクターで牽引されてやってきた電車を迎えるシーンは印象的です。また、近所のお百姓さんを畠の先生として迎え、畑作りを学びます。自分たちで蒔いた種が芽吹き、大きくなっていく様子が喜ぶトットちゃんたち。校長であった小林先生は何よりもこの「本物」を大切にし、子どもたちの可能性を信じていました。

この本は、黒柳徹子さんの自叙伝ですが、教育全般に渡るさまざまな示唆に富んでいます。私がいまだに「本物」にこだわるのも、この本が私に教育の原点を示し、時には羅針盤として進むべき道を照らしてくれているからでしょう。

新刊のご案内

子どもが輝く道徳授業

中学校道徳科の授業づくりから



監修・著者

七條正典 香川大学名誉教授・元文部科学省教科調査官

柴原弘志 京都産業大学教授・元文部科学省教科調査官

編著者

植田和也 香川大学教授

荊木 聡 園田学園女子大学准教授

浅部航太 東京学芸大学教職大学院准教授

村田寿美子 京都府城陽市立東城陽中学校教諭

鈴木賢一 愛知県弥富市立十四山東部小学校教諭

第1章 心に残る中学校道徳科の授業

第2章 授業づくりで大切にしたいこと7

第3章 深い学びにつながる授業づくりQ&A

第4章 授業力・学校力を上げる校内研修

第5章 管理職や道徳教育推進教師への期待

体裁:A5判・136ページ
定価:1430円(本体1300円)
ISBN978-4-86702-074-6

お問合せ
☎ 03-3577-8966 (営業部)

こんな内容が詰まっています